日本水文科学会設立30周年記念 特集 「周辺学術分野および技術発展と水文科学」序文

小野寺 真一*

Special Features for 30th Anniversary of JAHS “Development of associated academic fields and technology with hydrological science”

Shin-ichi ONODERA*

本学会では、2017年に「周辺学術分野および技術発展と水文科学」と題して、学会設立30周年記念公開ポスター発表会を開催した。本特集の目的は、先に出版されている日本水文科学会設立30周年記念特集「持続可能な未来地球に貢献する水文学のあり方を考える一次世代の水文学が取り組むべき課題とは一」と同様に、最近10年間の本分野における発展をまとめるとともに、今後10年の課題を見据えることにある。「水文学」や「日本水文科学会」を取り巻く環境の変化は先の序文（小野寺・辻村，2018）で記しているためここでは省略するが、特に最近10年間における変化は大きなものであったといえる。「水文学」における「科学性」や「国際性」の進化はいうまでもなく、本学問の特性上「社会性」や「地域性」の進化にも注目すべき点が多かった。また、同時に近隣の学問分野との融合にともなう進化も見逃すことはできない。

以上のように多様化する価値とその拡大は、学術的にも近隣の分野との融合や技術的なイノベーションを駆動してきたといえるだろう。このように「水文学」をベースとした最近の多様な研究動向を探り、今後10年の課題を見極めることは、将来を見据えるうえでは極めて有益である。そこで、前述のように本学会の30周年を記念して、2017年10月1日に駒澤大学において表題のポスター発表会が開催された。各内容は、実行委員会

から依頼された11名の本学会会員を中心とするチームが、「水文学」と多様な近隣分野との接点を含めて様々な角度からレビューを行い、今後の課題を提言するというものであった。

「周辺学術分野」

- 1 飯田真一・玉井幸治・野口正二・小林政広
（(国) 森林研究・整備機構 森林総合研究所）
「森林における水文現象の把握：プロットから流域スケールの手法による知見と今後の展望」
- 2 林 武司（秋田大学）「地質学と水文科学」
- 3 井岡聖一郎・村岡洋文（弘前大学・新エネ研）・内田洋平（(国) 産業技術総合研究所）・鈴木陽大（弘前大学・院）「地熱・地中熱と水文科学」
- 4 町田 功・小野昌彦・井川怜欧・丸井敦尚
（(国) 産業技術総合研究所）「深層地下利用と水文科学」
- 5 中村高志（山梨大学）・細野高啓（熊本大学）
「地球化学と水文科学」
- 6 齋藤光代（岡山大学）・小野寺真一（広島大学）・大久保賢治（岡山大学）「沿岸海洋学と水文科学の融合に関わる研究の現状と今後の展望」
- 7 飯泉佳子（(国) 国際農林水産業研究センター）・吉川省子（(国) 農業環境技術研究所）

広島大学大学院総合科学研究科 Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University

* 責任著者

「農業と水文科学」

[周辺技術]

- 8 樋口篤志 (千葉大学) 「リモートセンシング技術と水文科学」
- 9 利部 慎 (長崎大学) 「若い地下水年代測定技術の課題と展望」
- 10 田上雅浩 (東京大学) 「水同位体研究の現状とブレークスルー」
- 11 清水裕太 ((国)農研機構 西日本農業研究センター)・小野寺真一 (広島大学)・松森堅治・高橋英博 ((国)農研機構 西日本農業研究センター) 「GISおよび流域モデル研究の現状と展望」

以上のポスター講演の内容は、どれも充実した内容で有意義なものであった。そのため、それぞれの講演者には執筆を依頼して本会誌で特集とすることが計画された。ただし、残念ながら今回掲載できるのは樋口氏の一報となっている点は、編

集を担当した著者の不手際でありお詫びしたい。引き続き他の講演者にも執筆をお願いし掲載に漕ぎつけるように努力していきたい。本学会の次の10年に向けての船出は、会員数や若手会員などの状況から極めて厳しい状況にあることは明白である。しかし、本特集が将来の「水文学」にとって貴重な成果として残っていくものと信じている。まさしく、広く学術の礎となっていくであろう。最後に、ご多忙の中でご準備いただき講演していただいた各講演者の皆様には心より感謝の意を表します。

文 献

小野寺真一・辻村真貴 (2018) 日本水文科学会 設立30周年記念特集「持続可能な未来地球に貢献する水文学のあり方を考える一次世代の水文学が取り組むべき課題とは一」序文. 日本水文化学会誌, 48(3), 129-131.